

## 平成29年度 第1回四万十町人づくり委員会 会議結果（要旨）

日時：平成29年9月26日（火） 15:00～17:05

場所：四万十町農村環境改善センター 大会議室

〔出席委員〕 梶原弘資、松下 敦、南 昌宏、井上和久、森本民之助、門舛俊也、  
水田勝隆

〔欠席委員〕 武市敏男、田辺誠進、神野博敬、佐竹宣昭、渡邊光明、畦地履正、  
山崎直美、岡村健志

### 【会議次第】

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 四万十町長挨拶
4. 議事
  - 1) 平成29年度事業報告について
    - ・未来塾（四万十町高校応援大作戦他）
    - ・四万十塾（イノベーター養成講座他）
    - ・産業振興塾（農業者ネットワーク他）
  - 2) その他
5. 閉会

### 【会議結果】

（森本委員長）

只今から、平成29年度第1回四万十町人づくり委員会を開催させていただきます。

平成27年9月にこの人づくり委員会が設置され、5回の委員会を経て、基本方針である「四万十町人づくり戦略」を策定し、平成28年3月に町長に提言することができました。

昨年12月の委員会におきましては、この方針に基づき策定された実施計画（資料P3～P5）について協議をいただいたところです。

本日は、この後事務局よりこの実施計画の進捗状況などの報告がありますので、よろしく願いいたします。

（森副町長）

本日、委員の皆様のご出席をいただき、本年度第1回の委員会が開催されますこと

を厚くお礼申し上げます。

先の9月議会においても人材育成関連では、町内には経験を有し非常に素晴らしい経歴のある方がいるので、スピード感を持って真剣に考えていきなさいという議論もなされたところです。

今後さらに人口減少が進展をいたしますので、町政の一丁目一番地として、この人材育成を中尾町政としては取り組むという姿勢を示しまして、先ほど森本委員長から詳しく過去2年の報告もあったところです。

特に委員の皆様におかれましてはこの2年間の在任中に、方針や計画策定等において尽力をいただきましたこと、あらためてお礼申し上げます。

本日が最後の委員としての会議となりますので、本日はよろしく願います。

(森本委員長)

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、未来塾から説明をお願いします。

(事務局)

事務局説明 未来塾の事業報告 (資料P6～P8)

※町営塾「じゅうく。」映像資料あり

(森本委員長)

これから質問等をいただきながら進めていきたいと思います。

門外委員をお願いします。

(門外委員)

通われている生徒さんですけど、不登校の生徒さんもいますが、どのような生徒さんが集まっているのでしょうか。

(事務局)

窪川高校、四万十高校の生徒さんは、自ら学びたいという気持ちを持ってやってくる生徒さんたちで、中にはほぼ毎日顔を出している生徒さんもいて、一つの居場所になっているのかなと思っています。

小中学生につきましては、主に不登校に対応する教育支援センターに通室届を出している児童生徒が数名通って学習しているところです。

(森本委員長)

南委員さんどうでしょうか。

(南委員)

小学校や中学校の保護者の方ともお会いする中で、「じゅうく。」っていいよね、町がこんなことをしてくれているのはありがたいよね、と言う声も聞きます。

取り組みを始めて間もないと思いますが、今の通塾生の人数は予想していた数字でしょうか。

(事務局)

開設前の準備段階では、スタート時点では2割程度の人数を考えていました。

現在、窪川高校では37名の通塾申請のうち、常時10名程度が来ている状況ですが、中にはちょっと足が遠のいているといった生徒もいます。

(森本委員長)

小中も含めた未来塾ですので、井上委員、義務教育の分野で、ご意見等はございますでしょうか。

(井上委員)

スタッフが素晴らしいなと思います。

是非、小学校や中学校の方にも足を運んでいただきたいし、下級生ほど吸収する力もあると思いますので、早めに夢や今の目標がつかればもっと子どもたちは頑張れるんじゃないかと思います。

(森本委員長)

発達の早い段階でいいものに接触していたら、子どもたちが夢を持てるということだと思います。

興津中学校には、塾のスタッフが入っているということですが、一番大きい窪川中学校への接触の予定はあるのでしょうか。

(事務局)

具体的な予定はないんですが、今年度は中学校へ入っていきたいなと考え、現在、計画を立てています。

今後、小学校にも出向き早い段階から接触したいですし、スタッフも一緒に学んで、「じゅうく。」の幅も広げていければなと考えているところです。

(森本委員長)

水田委員、幼少期からの教育についてご意見等ありますでしょうか。

(水田委員)

「じゅうく。」のスタッフは県外から大変な決意を持って来られ、高校生中心にこのようにやってもらっていることは非常にありがたいことです。

四万十町に生まれた子どもたちが、本当に元気で育っていくには、やはり家庭が第一だと思います。

不登校などの問題を減少させるにせよ、違う根っこの部分を直すと問題は解決すると思うので、温かい家庭を築くことが重要だと思います。

ですから、発達段階の中で、小さい子どもを持っている親の研修の場をつくれば、親も変わり子どもも良くなるし、温かい安定した家庭ができれば、自然に人が育っていく、他の市町村でもいろいろな取り組みをされているので、長期的にはなるのですがそのような機会を是非やっていただきたいと思います。

(休憩)

(森本委員長)

それでは、四万十塾の説明をしていただきたいと思います。

(事務局)

事務局説明 四万十塾の事業報告 (資料P 9～P 12)

(森本委員長)

非常に幅広く研修等を企画していただいていると思います。

かなり広い分野で、つながりを持たないといけないとありましたけど、商工関係の中で、梶原委員、コメントをお願いします。

(梶原委員)

僕も 40010 フィールドミーティングに顔を出させてもらっているんですけど、すごく勉強にもなり、分かりやすく勉強させていただきました。

他の人にもお勧めできるかなと思います。

(森本委員長)

そういう意味では、宣伝とかはどのようにやられているのでしょうか。

(事務局)

40010 フィールドミーティング、go go tea の方は、商工会が主催でありまして、本年度から試験的な取り組みとして行っていることから、今年は広範囲には周知していない状況でありますので、今後は広報等の周知方法が重要になってくると思います。

(森本委員長)

是非、メディアも含め広げるということで、この塾だけではなく、総合的にお願いしたいと思います。

ビジネスコンテストの方で応募した方には全てサポートしていくことになっているとありましたが、それはどこに書いていますか。

(事務局)

少し見づらいですが、資料 (P10) の絵の中で、ブラッシュアップ会を設け、下の図のように支援体制の中で関係機関が連携して支援していくこととしています。

また、商工会の方では経営相談もできますので、併せて活用しながら、その人のプランに応じて支援をしていきたいと思っています。

(森本委員長)

このビジネスプランコンテストの資料を客観的に見た感じですが、すぐにはそのように見えない感じがしますので、応募した方全員に支援していただけることを大きく記載した方が、少しチャレンジしてみようかという方も少し増えてくるんじゃないかと思いました。

(門外委員)

そうですね、非常に幅広い層に対しての教育を行っていますので、難しいところもあると思うんですが、それぞれ見てみますと、目的がわりとはっきりしていて、広報等のまだ十分でない面も見受けられるんですが、スタートの段階としては、対象が具体的なので、もっと深掘りしていくことでいいものになるのではないかと思います。

また、われわれ金融機関としては、積極的に関与して、四万十町のお役に立てることがあるのではないかと思います。

(井上委員)

本当に興味のあることなんですが、ビジネスプランの審査結果は2月18日に決まるんですかね。

これは何かで公表とかするんでしょうか。

(事務局)

町の広報誌、ケーブル等でお知らせしたいと考えています。

(森本委員長)

ちなみに今の応募数はどれくらいでしょうか。

(事務局)

確実に応募していただいているのは1件で、申請予定が2件、考案中が数件と聞いていますので、現在、考え中の方に働き掛けを行っています。

(森本委員長)

続いて、3つ目の産業振興塾の説明を受けて質問等をいただきたいと思います。

(事務局)

事務局説明 産業振興塾の事業報告 (資料P13～P15)

(森本委員長)

産業振興塾の方から施策3つを説明していただきました。

農業関係もあります。松下委員何かございませんか。

(松下委員)

農業者ネットワークにはまだ参加していませんが、農業分野の中でも慣行栽培や有機栽培などに別れていくと思うので、それぞれの考え方があって、売り先もまた変わってくると思うんですよ。

無農薬や有機農法というのは、その生産者自身の表示や発信しているところによるので、一番安心なところで一番売りたいなと思います。

いろいろな考え方もあるので、これからの課題かなと思います。

(森本委員長)

事務局からもありましたが、価値基準であるとか経営の方法であるとか、求めているのは多様であるというところをなかなか一つにまとめるというのは、ちょっと方向としては難しいんでしょうね。

(松下委員)

地元にいる人たちは昔からの考え方もあり、自分は接点がまだないんですけど、Iターン関係者などは、組織的なものに抵抗感を感じる方もいて、難しい面もあります。

(事務局)

有機栽培の方との接点がないとか、出荷先が違うといった面もあるんですが、慣行栽培の方も、有機栽培の方から作り方一つとっても学ぶものがあるのではないかと感じているところです。いろいろな方々から刺激を受けて何かチャレンジする気持ちが生まれれば、時間はかかるかも分かりませんが、お互いが学び合うところをまず探しながら取り組んでいきたいと思います。

(森本委員長)

農業者ネットワークはどちらかと言うと生産者が中心だと思うんですが、そこには流通から消費者までのいろんなポジションの見方とか意見をもらうとかの会議があってもいいんじゃないかと思います。

良い物を一生懸命作っても、ユーザーが欲していなかったら、認知されないというのではもったいないわけです。そうすると、消費者や流通、金融とか経済の立場の方の意見もあってはどうかと単純に思いました。

(事務局)

そうですね、言われたように生産者中心です。

今後は、流通の仕組みに関する勉強会や市場への現場研修、消費者との交流機会の場などをつくりながら、意識を少し変えていければと考えております。

(森本委員長)

門舛委員、少し経済面の方からご助言とかございましたらお願いします。

(門舛委員)

我々も農業の方に興味を持ってしまして、このような取り組みをされているんだなと大変勉強になりました。

概要において、中山間地域の暮らしを次世代へ引き継いでいく、若い農業者を対象に主体的に学ぶ場を提供していく、ということですが、一方で農業という分野は、経営環境からみて「個」になりやすい動態だと思うんです。

実績のある四万十町ですから、農業をもっと若い世代の方がやりたい、自分の力を試してみたいとか、ちょっと敷居を低く、新たに農業したい人が入っていくきっかけの場になればいいのではないかと思います。是非頑張っていただきたいと思います。

(森本委員長)

梶原委員、若手の合同研修とか経営強化セミナーとかもあるんですけど、商工の立場から何かご助言やご意見があったらお願いします。

(梶原委員)

ちょっとやはり、経営強化セミナーとかになるととっつきにくいかなと。

もっと敷居が低いようなセミナーがあれば、自分たちも行ってみようかなという気になると思うんですけど。

例えば、農業関係でいえば「家庭菜園入門」など、何かすぐ作れるようなものをセミナーでやっていたら、行こうかなと思うんですけど。

(森本委員長)

まず、その前の段階で行きやすいものがあれば良いということですね。  
是非、このような意見もありますので、また検討していただければと思います。

(水田委員)

農業者ネットワークについては、農協がやられているところと重複しているのではないかと思います、そのところはどうなのでしょう。

(事務局)

現在、国や県の支援策を活用して町や農協等では様々な取り組みをしていますが、今回の農業者ネットワークは何か新しい事業をつくり上げるものではなく、販売先やIoT、人材確保などに関する新たな仕組みを探っていこうというものなので、今までとは少し違う視点かなと考えているところです。

(森本委員長)

それでは全部の事項を通して、何かございますでしょうか。

本当にいろんな施策を実行していただいていることに感謝し、人づくり委員会としてもうれしい限りです。

これだけ多くの施策を確実に、しかも量的にも質的にも高めていくには、担当の人材育成推進センターだけではなかなか難しいのではないかと思います、今後、関係部署との連携はどういう形で進んでいくのでしょうか。

(事務局)

昨年、町の第二次総合振興計画も策定しました。

産業分野から教育分野までいろいろな目標も掲げたところで、役場職員全体が同じ方向や同じ目標に向けて取り組まなければならないと思っています。

ただ役場内には各担当部署がありますので、所管する施策の課題やその施策の隙間を少し離れたところで支援し、また一緒にタッグを組む分野も探しながら、お互いの意識合わせの中取り組んでいきたいと考えています。

また併せて、商工会や金融機関など専門的な視点もいただき、行政職員の届かない分野も支援できればと思っています。

(森本委員長)

今後も、情報の共有はもちろんのこと、やはりお互いが納得し合い進めていくことが重要だと思います。

例えば、にぎわい創出課が高校生ための就職フェアを去年からやっていただいているのですが、実際に、高校生が地元就職する数が増えていると感じています。

部署が違ってもしっかりが大事であり、この人づくり委員会でもこのようなつながりが広がればと考えています。

是非、情報共有して共に行動できるスタンスをとっていただければと感じました。

時間になりましたが、その他でありますでしょうか。

(事務局)

現在の委員さんの任期満了に伴い、新たな委員さんの選任を進めています。

委員の任期は、平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 9 月 30 日までの 2 年間であり、新たな体制でまたスタートできればと考えています。

(森本委員長)

今月末で委員の任期切れということですが、2 年間本当にありがとうございました。

皆さんのお陰で、人づくり戦略や事業計画ができ、本当にありがとうございました。

ここで、あらためてお礼を申し上げ、最後のご挨拶とさせていただきます。

(終了：午後 5 時 05 分)